

副専攻名		建築学					
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)							
建築学に関連する自然科学・社会科学の基礎を習得する。							
副専攻の学習成果							
建築学に関連する自然科学・社会科学の専門基礎知識を修め、これらに関する概念や基礎学力を備えて、一級建築士受験資格を得るとともに、良質な建築の構築に貢献可能な技術を身につける。							
副専攻を構成する科目							
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講クォーター・単位数			
				Q1	Q2	Q3	Q4
24041	建築設計演習A	建築設計製図についての基本を修得するため、基本図形の図学基礎、建築設計製図の記号、線、レタリングなどについて演習を含めて学ぶ。また小規模な建築物について基礎的な設計製図の演習を行い、透視図や模型の製作法についても学ぶ。	2				1
44086	建築設計演習B	建築設計についての基本を修得するため、木造住宅の具体的な課題を与え、それらに関する文献学習等を通じて必要な知識や考え方を習得し、機能・構造・造形面を考慮しながら基本設計を行えるようにする。また製図法を正しく使用して、各自の設計コンセプトを基本計画図および透視図として具体化する。	3	1			
44087	建築設計演習C	建築設計についての基本を修得するため、鉄筋コンクリート構造の具体的な課題に対して、それらに関する建築物の見学や文献学習等を通じて、必要な知識や考え方を習得し、機能・構造・造形面を考慮しながら基本設計を行えるようにする。また製図法を正しく使用して、各自の設計コンセプトを基本計画図および模型として具体化する。	3		1		
44128	建築設計演習D	より高度な建築設計能力を修得するため、鉄筋コンクリート構造の具体的な課題に対して、文献学習等を通じて必要な知識や考え方を習得し、機能・構造・造形面を考慮しながら基本設計を行えるようにする。また製図法を正しく使用して、各自の設計コンセプトを基本計画図および模型として具体化する。	3			1	
44129	建築設計演習E	より高度な建築設計能力を修得するため、鉄筋コンクリート構造の具体的な課題に対して、文献学習等を通じて必要な知識や考え方を習得し、機能・構造・造形面を考慮しながら基本設計を行えるようにする。また製図法を正しく使用して、各自の設計コンセプトを基本計画図および模型として具体化する。	3				1
44145	建築設計演習F	総合的で幅広い設計能力を修得するため、鉄筋コンクリート造又は木造の住宅課題に対して、文献学習等を通じて必要な知識や考え方を習得し、機能・構造・造形面を考慮しながら断面詳細を含む基本設計を行えるようにする。また製図法を正しく使用して、各自の設計コンセプトを基本計画図および模型として具体化する。	4	1			
44146	建築設計演習G	総合的で幅広い設計能力を修得するため、鉄筋コンクリート造の具体的な課題に対して、文献学習等を通じて必要な知識や考え方を習得し、機能・構造・造形面を考慮しながら基本設計を行えるようにする。また製図法を正しく使用して、各自の設計コンセプトを基本計画図および模型として具体化する。	4		1		
24039	建築学概論A	本講義では、1.建築史総論、2.主に国内外の建築史に関する学識を理解し、それらにより、建築史に関する主要な専門用語を説明できるようにする。	2			1	
24040	建築学概論B	本講義では、建築学における種々な建築計画の基本的考え方や主要な専門用語を説明したり、実際の建築物を見聞し、計画、設計、デザインのコンセプトを理解し、説明できるようにする。	2				1
44113	景観デザイン学A	1. 景観の計画・設計・デザインに関する基本的考え方を理解し、主要用語を説明できる。 2. 景観について、建築物のデザインを分析・評価し、それを言葉や文章で表現できる。	4	1			

副専攻名		建築学					
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)							
建築学に関連する自然科学・社会科学の基礎を習得する。							
副専攻の学習成果							
建築学に関連する自然科学・社会科学の専門基礎知識を修め、これらに関する概念や基礎学力を備えて、一級建築士受験資格を得るとともに、良質な建築の構築に貢献可能な技術を身につける。							
副専攻を構成する科目							
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講クォーター・単位数			
				Q1	Q2	Q3	Q4
44114	景観デザイン学B	建築物や都市施設等の計画・設計・デザインにおいて求められる景観的な配慮に関して、その必要性や、制度の現状、景観構成要素や色彩、景観評価手法、視覚的解析について理解する。	4		1		
44084	建築計画A	本講義では、建築計画の基礎的な素養として、住宅、福祉施設などの計画理論や事例を参照しながら学習し、理解し説明できるようにする。	3	1			
44085	建築計画B	本講義では建築計画の基礎的な素養として、教育施設、地域施設、事務所建築の計画理論や事例を参照しながら学習し、理解し説明できるようにする。	3		1		
44118	住生活学 I	日本の住まいの変遷と社会的背景、日本の住様式の特徴を理解し、今後の方向性を理解すること、住宅政策について理解し、今日的課題に関心を持つとともに、現代の住生活と住空間に生じる問題や課題を見出せることを目標とする。	3			1	
44119	住生活学 II	住居計画についての基礎的知識を習得し、住宅計画をとりまく現状と課題、近年の家族やライフスタイルの変化による居住ニーズの変容と、それらに適合した住まいのあり方を理解し、現代の住生活と住空間に生じる問題や課題を見出せることを目標とする。	3				1
44088	建築環境工学A	(1)熱・空気・光・音などの物理的環境要素の基本的な特性を理解する。 (2)建築空間におけるこれら物理的環境要素をコントロールするための技術の概要を理解する。	3	1			
44089	建築環境工学B	(1)熱・空気・光・音などの物理的環境要素の基本的な特性を理解する。 (2)建築空間におけるこれら物理的環境要素をコントロールするための技術の概要を理解する。	3		1		
44130	建築設備工学A	1. 建築物に必要な各種の建築設備の概要を理解する。 2. これらの建築設備の具体的な内容を学習し、設備の適切な選択と設計方法を理解する。	3			1	
44131	建築設備工学B	1. 建築物に必要な各種の建築設備の概要を理解する。 2. これらの建築設備の具体的な内容を学習し、設備の適切な選択と設計方法を理解する。	3				1
24028	構造力学A	(1)力の性質と法則、つり合い条件、構造物の安定・不安定を説明できる (2)構造物、支持形式、荷重に関する術語を的確に説明できる (3)静定構造と不静定構造を理解し、反力および断面力を求めて説明できる	2			1	
24029	構造力学B	(1)静定トラスの部材力を計算できる (2)荷重との関係で断面力が構造物の軸方向にどのように変化するかを理解し、断面力図を描ける (3)影響線を理解し、断面力を影響線を用いて求めることができる	2				1
44068	構造力学C	(1)応力とひずみを理解し、組合せ部材内部の応力-ひずみ関係と部材の荷重-変形関係を計算できる (2)部材の断面諸定数の意味を理解し、代表的な断面の定数を計算できる (3)断面定数を用いて、断面力より断面内の曲げ応力とせん断応力を計算できる	3	1			

副専攻名		建築学					
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)							
建築学に関連する自然科学・社会科学の基礎を習得する。							
副専攻の学習成果							
建築学に関連する自然科学・社会科学の専門基礎知識を修め、これらに関する概念や基礎学力を備えて、一級建築士受験資格を得るとともに、良質な建築の構築に貢献可能な技術を身につける。							
副専攻を構成する科目							
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講クォーター・単位数			
				Q1	Q2	Q3	Q4
44069	構造力学D	(1)2軸応力状態での主応力を理解し、モールの応力円を説明できる (2)はりの曲げの微分方程式を理解し、直接解法や弾性荷重法を用いて静定はりの変形を算定できる (3)変位の適合条件を理解し、不静定構造の反力と断面力を算定できる	3		1		
44072	土質力学及び演習A	1. 土の物理的性質について説明でき、必要な計算が行える。 2. 地盤内の透水現象について説明でき、定常浸透流の解析解や図解法を用いて必要な計算ができる。 3. 土の圧密現象について説明でき、解析解や e - $\log p'$ 関係を利用して必要な計算ができる。	3	2			
44073	土質力学及び演習B	1. 土のせん断強度を説明でき、土圧、擁壁の安定性、浅い基礎の鉛直支持力が計算できる。 2. 土の限界状態と状態曲面を説明でき、せん断を受ける土の挙動の概要を推定できる。 3. 土の液化現象とそのメカニズムについて説明でき、各種対策工法の違いや特徴を比較できる。	3		2		
44099	構造解析学A	(1)仮想仕事の原理を用いて構造物の変形を計算できる (2)構造物のひずみエネルギーとカステリアーノの定理を用いて載荷点変位を求めることができる (3)最小仕事の原理を用いて簡単な不静定構造物を解くことができる (4)弾性方程式法(余力法・応力法)を用いて簡単な不静定構造物を解くことができる	3			1	
44100	構造解析学B	(1)変位法とたわみ角法による構造解析手法について理解し、連続ばりやラーメン構造の構造計算ができる (2)応力法と3連モーメント法による構造解析手法について理解し、連続ばりやラーメン構造の構造計算ができる (3)エネルギー法とたわみ角法そして3連モーメント法、変位の連続条件を用いる方法などの特徴を説明することができる	3				1
44074	応用振動学A	1. 土木建設分野における振動、波動問題を理解し、他者に説明できること。 2. 1自由度系の自由振動を理解し、式の誘導ができること。 3. 自由振動波形から、固有振動数と減衰定数を計算できること。	3	1			
44075	応用振動学B	1. 土木建設分野における振動、波動問題を理解し、他者に説明できること。 2. 1自由度系の強制振動を理解し、式の誘導ができること。 3. 構造物の設計で考慮すべき耐震、免震、制震の概念を理解し、他者に説明できること。	3		1		
44103	地盤工学A	土質力学で学んだ基礎的内容を基にして、構造物と地盤の相互作用を念頭に、 1. 支持力理論、基礎構造物の挙動と設計、土留め工、地下構造物と作用土圧の諸問題について、その概要を説明できること。 2. また初歩的な問題に対して、適切な評価式を適用して支持力や安全率を計算できること。	3			1	
44104	地盤工学B	1. 構造物への入力となる地盤振動の求め方について基本事項を理解し、他者に説明できる。 2. 現行の設計法における、地盤振動の取り扱い方法について学び、正しく設定でき、問題点を把握できる。 3. 地震による地盤災害について学び、対策法の原理を地盤振動の原理に基づき説明できる。	3				1

副専攻名		建築学					
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)							
建築学に関連する自然科学・社会科学の基礎を習得する。							
副専攻の学習成果							
建築学に関連する自然科学・社会科学の専門基礎知識を修め、これらに関する概念や基礎学力を備えて、一級建築士受験資格を得るとともに、良質な建築の構築に貢献可能な技術を身につける。							
副専攻を構成する科目							
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講クォーター・単位数			
				Q1	Q2	Q3	Q4
44138	地盤解析学A	1. 多次元問題における運動学および静力学について理解できる。 2. 線形等方弾性体の応力～ひずみ関係が理解でき、それを用いて物体の簡単な挙動が説明できる。 3. 弾性波動の伝播が理解でき、それを用いて震源距離を推定できる。	4	1			
44139	地盤解析学B	1. 地盤工学分野における振動、波動問題を理解し、他者に説明できる。 2. 線形の自由振動および強制振動を理解し、式の誘導ができる。 3. 等価線形化法による非線形性の取り扱いについて学ぶ。	4		1		
44101	鉄筋コンクリート工学A	1. 任意形状の鉄筋コンクリートはり断面の断面諸量が計算できること。 2. 鉄筋コンクリートの補強機構と限界状態設計の考え方が理解できること。 3. 曲げを受ける部材の破壊形式を理解し、断面決定および断面内応力の計算を通じて、鉄筋による補強の考え方を理解できること。 4. 鉄筋コンクリートの耐久性に関する照査の考え方が理解できること。	3			1	
44102	鉄筋コンクリート工学B	1. 帯鉄筋柱とらせん鉄筋柱の破壊様式と耐力が理解できること。 2. 偏心軸方向圧縮力を受ける部材の破壊形式を理解し、断面決定および断面内応力の計算を通じて、鉄筋による補強の考え方を理解できること。 3. せん断力を受ける部材の破壊形式を理解し、断面決定および断面内応力の計算を通じて、鉄筋による補強の考え方を理解できること。 4. 許容応力度設計法の考え方が理解できること。	3				1
44136	プレストレストコンクリート工学	1. プレストレストコンクリートの原理とプレテンション方式、ポストテンション方式の相違を理解できること。 2. プレストレスの損失を材料の弾性、粘弾性特性との関連において理解できること。 3. 曲げを受ける部材の断面設計の基本と曲げ耐力算定の根拠を理解できること。 4. せん断補強に関する考え方がRC構造と同一であることが理解できること。	4	1			
44137	コンクリート構造診断学	1. コンクリート構造物の様々劣化機構とその現れ方、特にひび割れとの関連を理解できること。 2. コンクリート構造物の検査・診断技術の基本原則を理解できること。 3. 劣化に要因に応じた補修・補強工法選択に関する基本的な考え方を理解できること。	4			1	
44134	鋼構造学A	(1) 木質材料の特性や木造工法の特徴について説明できる (2) 鋼部材の座屈問題を解くことができる (3) 鋼部材の劣化現象である腐食や疲労のメカニズムを説明できる (4) 構造物の補修・補強方法やマネジメントについて説明できる	4	1			

副専攻名		建築学					
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)							
建築学に関連する自然科学・社会科学の基礎を習得する。							
副専攻の学習成果							
建築学に関連する自然科学・社会科学の専門基礎知識を修め、これらに関する概念や基礎学力を備えて、一級建築士受験資格を得るとともに、良質な建築の構築に貢献可能な技術を身につける。							
副専攻を構成する科目							
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講クォーター・単位数			
				Q1	Q2	Q3	Q4
44135	鋼構造学B	(1)構造解析に使用する線形数学を理解し、その解法を説明できる (2)弾性ばね系の剛性マトリックスと全体剛性方程式と解法について理解し、解析できる (3)トラス構造の剛性方程式について理解し、与えられた荷重、変位条件での未知変位と反力、軸力について計算できる (4)軸力と曲げを受ける骨組構造の剛性方程式について理解し、一般的な解法を説明できる (5)カステリアーノ定理を用いた剛性方程式の誘導方法について理解し、一般構造の有限要素法による剛性マトリックス誘導方法を説明できる	4		1		
44070	建設材料学A	コンクリートを製造するためには使用する材料の物理的および化学的性質、フレッシュコンクリートの性質、コンクリートの性質(強度、弾性係数、クリープ)に関する基礎知識を習得する。	3	1			
44071	建設材料学B	建設材料を適材適所で用いるために必要な各種材料の基本的性質(物理的性質および化学的性質)、それらの種類や用途などに関する基礎知識を習得する。	3		1		
44147	建築施工A	建築物の施工について、木造と鉄骨の建築物について、講義及び施工現場の見学を行い、仕組みや手順、関連制度などについて、ひと通り修得する。	4	1			
44148	建築施工B	建築物の施工について、鉄筋コンクリート、鉄骨の建築物の講義及び施工現場の見学を行い、仕組みや手順、関連制度などについて、ひと通り修得する。	4		1		
44149	建築法規	建築基準法及び建築関連法について解説し、それらの理念、体系などについて理解し、必要に応じて、該当法制度を的確に参照できるようにする。	1	1			
44080	都市計画A	都市の主要な構成要素として、街路・道路、建築物、緑地・公園・オープンスペースを取り上げ、それぞれについて把握する。	3	1			
44081	都市計画B	防災、環境保全、上下水道、電気、情報などの基盤施設の現状、課題、計画制度、事例などについて把握し、都市計画の歴史、日本の都市計画法制度、諸外国における先進的都市計画制度について、その特徴、主な制度、事例などについて把握する。	3		1		
24036	計画プロセス	適正な公共投資のために、土木施設計画、地域計画、都市計画などについて、社会的役割、技術者としての倫理、事業評価の理論や手法と適用事例、情報公開とPI(パブリック・インボルブメント)や住民参加など、それらに関する制度、内容・手法、応用事例などについて把握する。	2			1	
24037	地域計画基礎	都市・地域の計画内容・手法について、計画モデルとして、特定の都市地域を対象とする数理モデルを扱し、人口、経済、土地利用、施設立地などのモデルを事例地区に適用できる。	2				1

副専攻名		建築学					
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)							
建築学に関連する自然科学・社会科学の基礎を習得する。							
副専攻の学習成果							
建築学に関連する自然科学・社会科学の専門基礎知識を修め、これらに関する概念や基礎学力を備えて、一級建築士受験資格を得るとともに、良質な建築の構築に貢献可能な技術を身につける。							
副専攻を構成する科目							
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講クォーター・単位数			
				Q1	Q2	Q3	Q4
79701	地域概論	1. 学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。 2. 自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。 3. 将来の働く姿を描きつつ、大学4(6)年間の学修を主体的にデザインできるようになること。 4. 石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。	1		1		
24003	測量学及び実習第1	(1)測定データ処理に必要な誤差論と最小2乗法の原理を理解し、適切な誤差調整ができる。 (2)各種距離測量の方法と特徴を理解する。 (3)平板測量を理解する。 (4)トランシット測量と観測誤差の処理方法を理解する。 (5)トラバース測量の方法と誤差調整法を理解する。 (6)水準測量とスタジア測量について理解する。 (7)三角測量の方法と誤差調整法を理解する。 (8)リモートセンシングについて理解する。 (9)最新の測量技術について理解する。	2		2		
24024	測量学及び実習第2	1. 実際の測量機器を用いて測量実習することにより、測量の原理を十分に理解する。 2. 各種測量機器の操作方法を習熟する。 3. 測量結果から距離、高さ、角度、方向、面積、体積などを求める方法を学ぶとともに、誤差の処理方法について理解を深める。	2				4
44064	社会基盤工学実験	実験を通して、構造力学、土質力学、土木材料学、水工学、環境工学、防災工学にまつわる現象理解と測定・評価方法の習得を深める。	3		2		
24035	施工・維持管理計画基礎	工程管理計画・維持管理計画・品質管理計画の基本的な考え方を理解するとともに、簡単な工程管理・品質管理を行うことが出来るようになる。	2				1
44105	土木建設防災マネジメントA	1. 自然災害科学を理解し、他者に説明できる。 2. 台風、豪雪の発生機構、荷重評価および構造物の応答とその被害対策について理解し、必要な計算ができる。 3. 自然災害に対する各種リスクマネジメントについて理解し、他者に説明できる。	3			1	
44106	土木建設防災マネジメントB	1. 自然災害科学を理解し、他者に説明できる。 2. 台風、豪雪の発生機構、荷重評価および構造物の応答とその被害対策について理解し、必要な計算ができる。 3. 自然災害に対する各種リスクマネジメントについて理解し、他者に説明できる。	3				1

各科目の「学生の学習目標」を達成することにより、「副専攻の学習成果」に達成します。